

2010年3月期第1四半期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2010年3月期第1四半期決算について】

Q：1Qの受注は堅調に見える。どのような業種で受注が増えているのか？

A：開発・製品販売の受注は、保険の増加の寄与が大きい。運用サービスの受注高の増分は、証券・保険・流通等いろいろな案件が混ざっているが、受注タイミングが前期と異なることによる影響が大きい。

Q：その他産業等向けの受注は順調に進捗しているのか。案件の具体例は。その他産業等向けが増えることによって、利益率に影響が出るとみられるか。

A：受注状況は想定範囲内。案件については、サービス業、消費財・食品など流通のノウハウを使いやすい製造業などが中心。利益率については、一般論として、新しい分野の新規顧客の仕事は最初1~2年低下する傾向があり、3年くらいすると通常の利益率になる。連結ベースの利益率については、外部委託費の削減効果などもあって運用サービスで改善する部分と、新しい分野の開発で利益率が悪くなる部分もあり、業績予想で示しているとおおり。

Q：野村証券向けのサービス化で、開発・製品販売から運用サービスに区分が移っている売上はどれくらいか。

A：個別のお客様の案件について、当社から詳しくご説明することは出来ない。

Q：販管費が膨らんでいるのは、稼働率の問題か？

A：販管費が増えているのは、予想では原価でみていた人件費が、営業や教育研修などの販管費にシフトしているため。社員の稼働率が上がり、原価に計上される人件費が上がるほうが望ましい。

Q：設備投資の進捗が遅れている理由は？

A：ハードウェア購入やソフトウェアの投資が予想で見ていたタイミングよりたまたま遅れたり、営業案件の進捗遅れによりデータセンターなどの設備投資が遅れたりしたのが原因。

Q：売上の減少に応じて償却費は減少するのか。

A：既存の運用案件で設備増強が期ずれしたとしても、売上にはあまり影響しない。運用の新規獲得が遅れるとその分売上は減少するが、ダイレクトに投資額と売上高の関係を説明するのは難しい。

【2010年3月期第2四半期以降の見通しについて】

Q：利益率を第1四半期(1Q)と第2四半期(2Q)で比較すると通常2Qの方が良い傾向があると

思う。今回の上期の業績予想から2Qを計算すると、1Qに比べて2Qの利益率が悪くなる予想だが、なにか原因があるのか。

A：一般論としては、利益は1Q<2Q、3Q<4Qになるのが通常の季節要因。今回特に2Qで赤字プロジェクトやコストの増大を見込んではいない。ただし投資が予定より遅れており、2Q以降に投資が予定どおり進み始めると減価償却費が1Qよりも増える可能性がある。加えて、新しい業種・新規顧客が増えていること、商品販売が伸びることによる影響もある。
ただ、2Q以降見通しを変えないのは、現在変えるほどの環境の変化が起きていない、先行きに対して依然不透明感があるというのが理由である。

Q：証券業向けを下期厳しくみている理由は。また保険業はさらに下期も前年同期比で伸びていくのか。

A：証券各社のIT投資は今期は厳しいと見ている。証券市場が少し活況になったからといって、すぐIT投資が出てくる状況ではない。営業状況をみても例年にもまして厳しい。保険業向けは、増分の多くの部分は保険業主要顧客向けによるもので、すでに高い成長をした分ある程度安定成長に近づいている。しかしその他の保険会社の案件もあり、一気に伸びが止まってしまうという事はないとみている。現在でも保険分野は人が足りず、リソースがボトルネックになっている。ピークがいつになるかはわからない。

Q：野村ホールディングス向けの売上の見込みは900億円~1000億円の間と聞いているが、変化はないか？

A：特に変わっていない。1Qの売上高が前年同期比△4.2%減なので、想定の水準だと思う。

Q：期初の償却費予想360億円は多すぎたということはないか。

A：無形固定資産は想定どおりだが、あえて言えば有形固定資産の投資がやや遅いかも。償却も同じ傾向。現時点で見方を変えるほどではないが、今後の推移による。

Q：予想の想定に比べて、コストが原価から販管費に回ってしまう状況は、2Q以降も続くのか。

A：コンサルティング事業環境が予想よりも悪い状況は、2Q以降も続くと考えている。そのため、これに起因してコストが原価から販管費にシフトする動きはすぐには解消しないと思われる。

Q：2Qの受注高は前年同期比でどうなるか。

A：開発・製品販売の受注高は、前期は2Qに保険の主要顧客向けの年間サポート分の受注があったが、今期は既に受注済みという要因もあるため、2Q受注高は前年同期比減少するとみている。運用サービスについては、1Q末時点で年間売上高予想に対する未受注分が127億円で、それを今後受注していくことになるが、受注のタイミングにもよるので、2Qの受注高の動向を現時点で言及するのは難しい。

Q：証券向けの回復のタイミングをいつ頃と見ている？

A：非常に読みにくい。システムの更新投資や制度対応などもありどこかのタイミングで回復すると思うが、いつかはわからない。

以上